『令和８年度 BCP（業務継続計画）研修』に参加して

報告者： 五省会ごふく居宅介護支援事業所 大利 達郎



令和８年 10 月 31 日、サンシップとやまにて、集合・オンラインのハイブリット形式で『令和８年度 BCP（業務継続計画）研修（災害に備え、介護サービスの継続を守るために～災害の経験から学び、実施に繋げる～）』が開催されました。

第一部では、豪雨災害から要介護者を守る～平時の備えと他機関連携～と題し、講師の石川県介護支援専門員協会副会長 水上直彦氏から、豪雨災害特有のフェーズ変化についての説明がありました。豪雨災害は地震災害に比べ、事前に情報収集することが可能であり、台風が発生した際から情報を得る必要性を再認識しました。次に、受講者各々のスマートフォンで、キキクルやハザードマップを検索し、マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を作成する時間がありました。皆さん、初めてのことで苦戦しながらも、真剣に取り組んでおられました。



講師 水上直彦氏





第二部は「豪雨災害対応・BCP 実践研修　シミュレーション」と題した講義の後、活発にグループワークを行いました。終盤、クロノロジー(時系列記録)シートの紹介があり、実際にインシデントや気象状況、検討したリスクなどを書き出し、見える化することで、残された課題がとらえやすくなることを学びました。

最後になりますが、VUCA 時代の今、平時から地域・多職種連携はもちろん、ハザードマップなどを活用し事前に情報収集しておくこと、日々変化する様々な状況に応じ、物事の判断基準をチームで共有することの重要性を、改めて感じさせられた研修となりました。